

Let's enjoy teaching in Fukui together !!

小浜市立西津小学校 教諭 大下 芳徳

私が教員を志した最大の理由は、『子どもが好き』ということでした。私は現在「英語専科」教員として、小浜市内の小学校を巡回して5・6年生の外国語科（英語）を指導し、英語授業を子どもたちといっしょに“思いっ切り”愉しんでいます。日々異なる感動に出会い、“充実感”や“達成感”を感じながら帰路に就けていることに素直に“感謝”しています。いつまでも自分自身の“夢”に向かって、純粋に努力することができる「教員」という仕事は、私にとってはまさに“天職”であります。これからも“初心”と“感謝”の気持ちを忘れず、子どもたちといっしょに愉しんでいきたいと考えています。そしてこれまでの教員生活で得られた、数多くの同僚や教え子たち、保護者の方々との思い出は、今でも私自身の財産と呼べるものです。そういう“つながり”は、教師という仕事にとって“大きな報酬”であり、決して「給料表」には表れてこない“無形の報酬”と言えるものだと考えています。

ところで、小学校外国語科（英語）が「必修科目」になって3年目になります。英語を重要視する“国際化”の流れは、我が国はもとより“全世界共通”であり、今では幼少の時代から英語塾に通う子どもも急激に増えてきています。このような“大きな流れ”の真ただ中で、英語学習の“基礎段階”に当たる小学校外国語科（英語）を担当できる“喜び”を日々“かみしめながら”子どもたちと共に英語を学んでいます。そして、様々なことを子どもたちからも学んでいます。つまり私たちは子どもたちと共に成長する存在であり、「教育者」であると同時に「共育者」でもあるのだと思います。私が日々の授業で心がけていることは『英語を通して（人生を）教える（考える）』ということです。私は学生の頃から英語に興味関心があり、英語が好きだから英語教師になったのですが、それよりも子どもたちと“英語を通して”「人間としての生き方」についていっしょに考えたいと思っています。特に英語学習の“スタート段階”に当たる小学校で英語を教える場合、まずは『慣れ親しむこと』と『楽しむこと』を第一目標にして取り組むべきであると考え、日々の授業に取り組んでいます。教職という仕事は、今では忙しいというレッテルまで貼られるようになりました。確かにこれまではそんな面もあったかも知れませんが、しかし私は若い頃から教員を辞めようと思ったことは一度もありません。どんなに忙しく、厳しく、きつい時にも、いつも“子どもたちの笑顔”に救われてきました。どんなにつらい時にも、子どもたちの“がんばり”に助けられてきました。その度に、「教員になってよかった！」と想着てきました。現在では教員の「働き方改革」も進められ、以前ほど“過酷な”勤務も少なくなってきました。何よりも教員という仕事は、自分自身で工夫し改善していける仕事だと思います。“働かされる”仕事ではなく、“自ら工夫し創造していける”仕事が「教職」だと考えます。この仕事の“エネルギー源”は子どもたちの“笑顔”であることは言うまでもありません。

「福井県で教職を志す皆さん、本県の教育が今後ますます発展していくように、私たちといっしょに力を合わせてがんばりましょう」近い将来“同志”として、皆さんといっしょに協働できる日が来ることを夢見て、私自身も日々教職を“楽(愉)しみながら”がんばっていききたいと思っています。